

佐久島弘法 体験と鑑賞の手引き

5番 朝日が最初に照らす場所「サンカク」 長岡 勉

海辺の切り立った岩場の上にある祠は、目の前に広がる海の景色に負けないようなシンプルで幾何学的な形と、潮風による風化が味になるようなタフな存在感とを合わせもつ。外形のサンカクに、斜めの段々の目地をもったコンクリートの外観は、大地からよきと突き出たよう。内側を覗くと、一番奥に開けられたガラスのスリットから朝陽が差込んで来きて、弘法様から後光がさしているように見える。

10番 波音がきこえる森の中で「青」 我部昌史(みかんぐみ)

丹梨海岸に降りるこの場所は、海の気配をかすかに感じる森の中にある。近くに群生するツブブキには、秋になると海を渡る蝶・アサギマダラが訪れ、海ではアカニシ貝から紫色の染料をとることができる。「青」という名称には、蝶や貝など佐久島の自然がもたらす色彩が取り入れられている。薄暗い森で祠の内部へ光を届ける仕掛けも施されていて、一日の限られた時間だけ、弘法大師像にあたたかい光が届けられる。

17番 「～風の訪れ～」 愛知工業大学 中井研究室

佐久島の歴史の積層を木とアクリルの壁で表現。従来の湿気のかもる祠から、さわやかな風を通す構造とした。屋根のかたちはお遍路さんの笠、背後の塔は杖をイメージしている。

26番 「ふたごほこら 過去と未来」

椋山女子園大学 村上研究室 名古屋商科大学 納村研究室

向かって左の祠は「過去」、右は「未来」をイメージ。本体部分はレンガ、基壇部分には地元西尾産の瓦の破片を使用し、厨子は祠の内部を明るくするためアクリルで制作した。

45番 「方形」 名古屋工業大学 北川研究室

本体部分は以前の祠を解体したレンガで再構築。屋根は木材で表面を佐久島らしく黒で塗装した。大屋根の内部は複雑な木組み構造。姿勢を低くして大屋根をくぐることで、弘法さんとの距離が縮まる。

47番 みかん畑で会いましょう「銀」 竹内昌義(みかんぐみ)

一日中太陽の光に満ちているこの場所にふさわしく、祠はステンレス製の正二十面体構造となっていて、その形は、弘法大師の法号が「遍照金剛」であることから、あまねく照らす金剛石(=ダイヤモンド)を連想させる。また、弘法大師は「銀(水銀)」の鉱脈と深い縁があると伝えられていて、歴史と現代の出会いも感じることができる。

48番 「御厨人窟 2011」 愛知淑徳大学 清水研究室

弘法大師修行の場である高知県室戸岬・御厨人窟(みくろど)と同じ、空と海が見える場所に、大師の歴史を吹き込む。丹波石を使用し、御厨人窟の洞窟のイメージを再現。歳月を重ねることで完成する祠。

55番 二代目山羊さんたちと「空海郵便とピリーザキット」 マニユエル・タルディッツ(みかんぐみ)

祠の内側は金色に塗装され、背面には砕いた鏡が貼り付けられて弘法大師の威光を現わしているようだ。祠のそばで島民に飼われている山羊のピリーの小屋も同時に設計され祠と対になっている。「やぎさんゆうびん」の歌詞(作詞:まどみちお)からヒントを得て、白やぎさん(ピリー)、黒やぎさん(ピリーの小屋)、おてがみ(弘法さんの祠=郵便ポストのかたち)が引用され、ウィットに富んだ構成となっている。

56番 「対」 名古屋大学 恒川・太幡研究室

完全崩壊して材料も失われていたこの祠は、アーチ型のデザインと基壇で佐久島弘法の記憶を踏襲した。御影石のようにつややかに光るコンクリートの祠の周囲には、参拝者のための小さな椅子も作られた。

57番 「空海の心」 大同大学 武藤研究室

祠の形状を曼荼羅に見立て、円と四角で構成。「我が心空の如く、我が心海の如く」という弘法大師の言葉を抽象的に空間化。素材は以前の祠のレンガを使い、佐久島オリジナル漆喰で塗装した。

64番 「合」 名城大学 生田研究室

本体部分は、若干の修復をほどこしながら旧来のレンガ造りをそのまま使用。崩れ落ちた屋根は、佐久島に多い寄棟屋根を鉄で制作し、内部に光と風を取り込む構造とした。

67番 「記憶のハコ」 名城大学 谷田研究室

本体部分は、旧来のレンガ造りをそのまま使用。メンテナンスを考慮して銅板のアーチ型屋根と一体化させた内装は佐久島の民家をイメージして木製にした。奥まった場所にあるためアプローチも制作。

80番 空と海を眺める高台で「ほりぞん」 加茂紀和子(みかんぐみ)

知多半島で焼かれたレンガタイルを積層させた祠は、レンガ作りの佐久島の祠を連想させる。上部に空いた円形の窓からは水平線が見える。「空と海」(空海は弘法大師の法名)の境界に夕陽が沈みかける頃、海面がきらめくのが見え、天気によければ紀伊半島が見える。そこには空海が修行の場として開いた高野山がある。

81番 貝のような椅子のような「コウボウノコシカケ」 小川次郎/日本工業大学 小川研究室

知多半島を臨む海辺の堤防沿いにある祠は、巨大な貝殻のような形と色を持つ有機的なイメージ。海からの強い風や波から、弘法さんを包み込むようにして守っている。そこに腰掛けることで、海を眺めながら弘法さんに寄りそう時間を静かに過ごしてほしい。

黒壁集落を歩き、森を抜け、海辺に行く……佐久島遍路



佐久島弘法巡り

スタート/ゴール地点 阿弥陀寺(東渡船場徒歩3分)/崇運寺(西渡船場徒歩3分)

弘法巡りのスタンプボックスはグレーです



	阿弥陀寺	正念寺	「サンカク」	「青」	「排虚」
	一	三	五 <small>長岡 勉</small>	十 <small>曾我部昌史(みかんぐみ)</small>	十五 <small>ふるかはひでたか</small>
「～風の訪れ～」	「ふたごほこら 過去と未来」 十七 <small>愛知工業大学 中井研究室</small>	「方形」 四十五 <small>名古屋工業大学 北川研究室</small>	「銀」 四十七 <small>竹内昌義(みかんぐみ)</small>	「御厨人窟 2011」 四十八 <small>愛知淑徳大学 清水研究室</small>	「亀乗弘法」 五十二 <small>松岡 徹</small>
「空海郵便とピリーザキット」	「対」 五十五 <small>マニユエル・タルディッツ(みかんぐみ)</small>	「空海の心」 五十六 <small>名城大学 恒川・太幡研究室</small>	「合」 六十四 <small>名城大学 生田研究室</small>	「記憶のハコ」 六十七 <small>名城大学 谷田研究室</small>	「ほりぞん」 八十 <small>加茂紀和子(みかんぐみ)</small>
「コウボウノコシカケ」	八十一 <small>小川次郎 日本工業大学 小川研究室</small>	崇運寺 八十八			

●スタンプポイントは見開き地図と、渡船場・弁天サロンで無料配布中の「佐久島体験マップ」をご参照ください

弘法大師とは？

平安時代初期(774年)に生まれた弘法大師(法名:空海)は、日本に真言密教を伝えた真言宗の開祖です。故郷の四国で山岳修行をした霊跡は、江戸時代に札番号を付けてまとめられ、「四国八十八ヶ所」の霊場巡りとして現在も多くの信仰を集めています。

佐久島弘法の歴史

大正時代のはじめ頃、全国各地に四国八十八ヶ所巡りを模した「写し霊場」がつけられました。佐久島でも今から95年ほど前(大正5年)、島内各所に八十八ヶ所の小さな弘法大師の祠が作られたそうです。戦前には、本土から弘法巡りの巡礼者たちが多く訪れ、阿弥陀寺の宿坊に滞在してにぎやかに島を巡ったと伝えられています。旧暦3月21日の弘法祭りでは、島中の祠に美しい花が飾られる「お接待」と呼ばれるふるまいがあり、当時のにぎやかさを偲ぶことができます。佐久島弘法プロジェクトは2010年から3ヶ年計画で、失われた祠を建築の力を借りてよみがえらせ、失われた弘法大師座像も二人のアーティスト(ふるかはひでたか/松岡徹)が制作することで、2012年に八十八ヶ所巡りの復活が完了しました。佐久島弘法道は、佐久島の歴史、島民の風習をたどる新たな散策道です。足もとにお気をつけて、心静かにお巡りください。

ご利用ください

弘法巡り休憩ベンチ

アップダウンの多い大山・秋葉山・富士山の3つの弘法道の眺めがよい・居心地のいい場所に休憩用ベンチが設置されました

弘法お掃除道具

秋になると枯葉に覆われる山の弘法道4ヶ所に掃除道具が設置されました。

弘法道マーク

入り組んだ黒壁集落で迷子にならないように、弘法道マークが設置されました。



佐久島弘法 散策地図

合
名城大学 生田研究室
64番札所



亀乗弘法
松岡 徹
52番札所



御厨人窟 2011
愛知淑徳大学 清水研究室
48番札所



銀
竹内昌義(みかんぐみ)
47番札所



方形
名古屋工業大学 北川研究室
45番札所



ふたごぼこら 過去と未来
福山女学園大学 村上研究室
名古屋商科大学 納村研究室
26番札所 27番札所





ほりぞん
加茂紀和子(みかんぐみ)
80番札所



空海の心
大同大学 武藤研究室
57番札所



記憶のハコ
名城大学 谷田研究室
67番札所



コウボウノコシカケ
小川次郎
日本工業大学 小川研究室
81番札所



対
名古屋大学 恒川・太幡研究室
56番札所



青
曾我部昌史(みかんぐみ)
10番札所



排虚
ふるかはひでたか
15番札所



～風の訪れ～
愛知工業大学 中井研究室
17番札所



サンカク
長岡 勉
5番札所



空海郵便とピリーザキット
マニユエル・タルディツ(みかんぐみ)
55番札所



佐久島弘法散策地図に記載されている見どころや、掃除道具・ベンチ・看板の設置は、2016年に開催された「佐久島アートマネジメント講座」の受講生のみなさんのアイデアを取り入れました。